

NEWS

The Kyushu University Museum
九州大学総合研究博物館ニュース

No.
43
March, 2025

博物館リニューアル準備始動

九州大学総合研究博物館は、来年度、いよいよリニューアルにむけて準備を開始します。近々、しばらくの間、博物館の一部機能をお休みすることになりますが、その前に、さまざまなイベントを企画しながら、みなさまとのいつかのお別れを惜しみたいと考えています。また、新しいメンバーも加わりました。これからも皆様といっしょにつくりあげていく博物館を目指しますので、いっそうの応援をよろしくお願い申し上げます。

総合研究博物館第10代館長 堀 賀貴





開催報告

九州大学総合研究博物館 × NHK「バックヤード探検隊」

福永 将大 開示研究部門・助教

2024年9月7日～9月16日に、NHK福岡放送局にて「九州大学総合研究博物館 × NHK バックヤード探検隊」を開催しました。以前、九州大学総合研究博物館のバックヤードに眠る収藏品をご紹介いただいた、NHKの番組「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪～九州大学総合研究博物館」と関連したイベントです。膨大な収藏品の中から、化石・貝類・動物骨・考古・鉱物・植物・剥製・昆虫など、博物館教員が厳選した収藏品を展示しました。展示会場は、NHK福岡放送局の1階ロビーと2階NHKギャラリーの2か所。展示した標本資料を題材にしたクイズラリーも実施しました。特に子どもたちにとっては、クイズの答えを探しながら、展示した標本資料をじっくりと観察する良い機会になったようです。

展示期間中には「はくぶつかん探検教室」を開催。自然人類学、植物系統学、鉱石、考古学、昆虫学・動物学の博物館担当教員が、それぞれワークショップや講演会を

行いました。約1週間という短い期間ではありましたが、とても多くの方にご来場いただきました。ちょうど夏休み期間ということもあり、親子連れでご来場いただいた方が多い印象でした。

さらに、展示期間中に、上記の「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪～九州大学総合研究博物館」を再放送していただいたり、夕方の情報番組「ロクいち!福岡」でも博物館での調査研究活動や収藏品を取り上げていただきました。NHK福岡放送局での展示イベントと合わせて、九州大学総合研究博物館の存在を多くの方々に知っていただく上で、とても良い機会となりました。

最後になりますが、本展示イベントの開催にあたってご尽力・ご協力いただきました、NHK福岡放送局の皆様、そして何よりも本展示にご来場いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

①・② 1階ロビー展示風景 / ③・④ 2階ギャラリー展示風景

COLUMN①

九州大学工学部建築学科 2024年度 卒業設計展

期間 ● 3月18日～5月25日 / 会場 ● フジイギャラリー G2

九州大学工学部建築学科4年 大池 岳



3月18日から5月25日にかけてフジイギャラリーにて「九州大学工学部建築学科 2024年度 卒業設計展」を開催します。建築学科では卒業設計を行っています。今回の展示では、完成した作品だけでなく、その制作過程も含めて展示し

ます。1年間で設計案がどのように変化していったか、どのような思考がデザインやアイデアを変えたのか、卒業設計で何を伝えたかったのか。その背景や過程も含めて見ていただければ、卒業設計で何を表現したかったかがより

伝わるのではないかと思います。この展示会を通して新しい視点や何かしらの気づきを持ち帰っていただければ幸いです。ぜひ足を運んでいただき、私たちの大学生活の集大成を感じ取っていただければと思います。

フジギャラリー展示開催報告

弥生時代の人々

—九州大学の自然人類学研究—

米元 史織 開示研究部門・准教授

日時 ● 2024年10月3日(木)～1月16日(木) / 場所 ● フジギャラリー G2 / 主催 ● 九州大学総合研究博物館
共催 ● 九州大学大学院比較社会文化研究院・糸島市・学術変革領域(A)「本州・四国・九州域における先史人類および文化の形成」

2024年10月3日から2025年1月16日まで九州大学伊都キャンパスのフジギャラリーにおいて総合研究博物館主催の「弥生時代の人々—九州大学の自然人類学研究—」展を開催しました。

当館は弥生時代人骨を中心とした約4000体の古人骨を所蔵しています。この膨大な資料を収蔵するきっかけは、



1950年に金関丈夫氏が九州大学医学部の教授に着任したこと、1953年に土井ヶ浜遺跡・三津永田遺跡が発見されたことでした。本展示では土井ヶ浜

遺跡と三津永田遺跡の発見をきっかけにだされた金関丈夫の渡来・混血説、そしてそれ以降九州大学で脈々と行われてきた数多くの古人骨研究を概観し、最新の研究成果まで伝わるような展示にしようと思掛けました。何よりこだわったのは古人骨資料を沢山展示することと古人骨のレプリカを用いて触れる展示を行うことです。この展示を通して膨大な資料こそが研究の核であることを伝え、そして触って体験することで研究成果に関する理解を促進するためです。約3か月の期間内で1,149名の方が来館してくださいました。

金関氏は九大を定年退職する1960年の2月に「この地方には、まだまだ古人骨の貴重な資料が、おびただしく地中に眠っている。それを集めて研究することは、私にはもう不可能になったが、しかし捨てておくことはできない。

それは今後の九大におけるこの方面の学者に、ぜひやってもらわねばならない仕事である。」と伝えていきます。それから65年、

この分野は永井昌文や中橋孝博、田中良之らによって引き継がれ、多くの後進を育ててきました。発掘された資料群は現在も博物館に収蔵されています。今後も研究は続けられ、人類史に大きな寄与をすることでしょう。

10月26日には学術講演として、九州大学名誉教授中橋孝博先生による記念講演会『弥生人骨—日本人の起源』探究のミッシングリンク』を日本ジョナサン・KS・チョイ



文化館で開催しました。さらに、「体験！3Dスキャナーで骨をスキャンしよう！」を当館のスタッフである吉田氏主導で実施しました。

また、本展示の一部を抜粋して糸島の志摩歴史資料館で2月1日から企画展示を行っています。

今後も本学の自然人類学的研究の動向に興味を持っていただければ幸いです。

① 展示風景 / ② 講演会の様子 / ③ 3Dスキャンの様子

COLUMN②

吉岡斉資料展 —日本の科学技術と原子力政策— (仮)

期間 ● 6月11日～8月6日 / 会場 ● フジギャラリー G2

赤司 友徳 (大学文書館准教授)



日本の科学技術論を牽引し、原子力政策にも深くかかわった故吉岡斉氏の膨大な資料が大学文書館に寄贈され、卒業生らによるボランティア活動によって公開目前に迫りました。本展では、資料整理プロジェクトの成果を示し、吉岡資料

から日本の科学技術と原子力政策の実態を探ります。

第1部では資料の受け入れから目録作成に至る経緯を示し、資料保存の舞台裏を紹介します。第2部では昨年放送文化基金賞ドキュメンタリー部門最優秀賞を受賞したNHK

番組「膨張と忘却～理の人が見た原子力政策～」をもとに、政府会議資料や手帳類など研究・政策形成の軌跡をたどります。資料整理や保存の大切さを広く伝えつつ、本展が新たな研究や活用の可能性を切り開く機会となれば幸いです。



白川英樹博士ご見学

丸山 宗利 分析研究部門・准教授



2024年11月29日、白川英樹博士が当館をご見学くださいました。改めて申し上げるまでもありませんが、白川先生は2000年に「導電性高分子の発見と発展」によりノーベル化学賞を受賞され、同年に文化勲章を受章されました。ご専門は化学ですが、幼少の頃から昆虫をお好きだったことで広く知られております。白川先生は、当館に多くの昆虫標本が収蔵されていることをご存じでいらっしゃる、九州にお越しの際にはぜひご覧になりたいとお考えだったようですが、これまでなかなか機会に恵まれなかったとのことでした。今回、ご講演のため福岡にいらっしゃる機

会があり、九州大学名誉教授で京都大学福井謙一記念研究センターの吉澤一成先生のご紹介を通じて、当館をご見学くださいました。まず、昆虫の収蔵庫をご案内し、世界の美しいチョウや甲虫類をご覧いただきましたが、終始歓声を上げられ、大変お喜びのご様子でした。その後、鉱物や植物、人骨をはじめ、当館の主要な資料をご紹介申し上げました。僭越ながら、先生がどのような分野にも強い関心をお持ちで、驚くほど鋭いご質問を次々に投げかけられるご様子には、深く感銘を受けました。また、昆虫が科学の入り口として重要であると考え、普及啓発に努めている者として、それを体現されている白川先生にお目にかかることができたのは、大変光栄なことでした。翌日にはご丁寧なお礼のメールを頂戴し、「もっと昆虫を見たかった」とおっしゃってくださったことが印象的で、昆虫に対する先生の深いご愛着を改めて感じた次第です。



展示案内

元寇防塁研究と九州大学

福永 将大 開示研究部門・助教

旧工学部本館2階南側廊下の元寇防塁に関する展示をリニューアルしました。展示内容は、令和5年度に九州大学伊都キャンパスのフジギャラリーで開催した企画展「元寇防塁研究と九州大学」をベースにしています。



元寇防塁は、日本史上においてはもちろんのこと、世界史上においても大変重要な史跡です。この元寇防塁の調査研究に、これまで九州大学が深く関わ

ってきたことはご存じでしょうか。福岡医科大学(現・九州大学医学部)の初代病理学教室教授・中山平次郎による研究を嚆矢とし、九州大学文学部教授・鏡山猛による

今津・生の松原・西新における学際的な発掘調査、そして、九州大学埋蔵文化財調査室による箱崎キャンパス跡地における元寇防塁の新たな発見など…。



本展示では、主にパネル展示ではありますが、九州大学が関わってきた元寇防塁の調査研究、その中でも特に考古学分野における調査研究の歴史と最新の成果について紹介しています。令和5年度のフジギャラリー展示では無かった、箱崎キャンパス跡地で見つかった元寇防塁の模型も展示していますので、是非お越しくださいませ。



開催報告

令和6年度

文化庁 Innovate MUSEUM 事業での「リアル催事連携」

二宮 聡 技術職員・文化庁事業コーディネーター

今年度の採択事業では、デジタルアーカイブに注目しつつも、箱崎の地域イベントと「リアル催事連携」することにより、事業と市民との接点を設けました。

そのひとつが箱崎商店連合会による「ハコザキマルシェ」。普段は毎月1回JR箱崎駅前で開催されますが、11月17日は特別に、当館と連携し箱崎サテライト内で開催されました。旧工学部本館内では、「まちの学芸員」さん達が、ここ1年半の活動をパネル展示しました。まちの文化資源の保存に関連して、樹木の3Dスキャンやデジタルアーカイブを紹介したり、昨年度みなで制作した「博物館ラジオ」を会場で流したりもしました。来場者の中には、会場で興味を持ち

「まちの学芸員」に登録してくれた方もいらっしゃいました。

12月1日には、筥崎宮参道で開催された箱〇道主催「BLUE WAY」(箱崎在住のアーティスト・銀ソーダさんによる、200mキャンバスへのライブペイント)に出展。私たちの担当ブースでは、本事業の紹介パネルを展示しました。同時に、銀ソーダさんらとのコラボによる「箱崎ブループリントプロジェクト」として、学芸員実習を兼ねた学生たちが行き交う人々に声をかけ、箱崎の写真とエピソードを集めました。アートをとおしてまちの記憶と時間をアーカイブするこの試みは、来場した方々が本事業への興味を持つきっかけとなりました。

フジギャラリー展示開催報告

フジギャラリー展示開始3周年記念

VISIONS — 抽象／写真をみる —

三島 美佐子 分析研究部門・教授



本展示は、『触発を促し創造性を育む「発想する空間」』という本ギャラリーの基本コンセプトに今一度立ち返り、展示物と自由に向き合うことを目的に企画されました。実は今年度、当館が開講する「博物館への招待」を受講した学生たちから、「抽象画や現代アートの見方がわからない」「そういう作品も楽しめるようになりたい」という声が寄せられました。そこで、アートや作品は“色々な「見方」をしてもよい”ということを体感してもらう為、著

名な写真家・佐藤信太郎氏の作品から抽象的な作品などをお借りし、展示しました。

芸術工学研究院の結城先生、結城先生の演習「デザインと日本C」を受講した留学生 Julia Ruppert さん・Eric Stelse さんらとタッグを組み、作品を引き立てる奥行きや見え方を工夫することで、制作時期に30年のタイムラグがある2つの異なる作品群の間の相似性や差異を引き出しました。また期間中、展示室内でいくつか授業を実施したり、基幹教育院のローレンス先生や芸術工学研究院のゼミソン先生らがアートをテーマにした英語セッションや英語学習を楽しくするようなワークショップを試みたりもしました。それらも合わせ本展示は、常々本学にご支援下さっているフジギャラリー寄付者・藤井徳夫様の「学生のために」という熱い思いにも、直接お応えできるものとなりました。



2025年度公開展示

いつもは見られないエリアを最後に一挙公開！

博物館の森で遊ぼう

米元 史織 開示研究部門・准教授

日時 ● 2025年5月17,18,24,25,31, 6月1,7,8,14,15日(計10日間) / 会場 ● 箱崎サテライト 旧工学部本館

九州大学箱崎サテライトに所在する旧工学部本館で活動している九州大学総合研究博物館は改修工事のため、その一機能をしばらくお休みすることになります。それに先立ち、5月17日から6月15日までの土日に、館内の通常は公開していない開示室やバックヤードを特別に一般公開します。また、専門家によるイベントを毎日開催する予定です。

当館には九州大学110余年の歴史の中で蓄積された145万点もの膨大な量の学術標本・資料が収蔵されています。これらは学問や大学の歩みを教えてくれるとともに、ここから新しい研究が生まれてくる可能性を秘めた宝物です。館内の開示室



やバックヤードには貴重な学術標本・資料が所狭しと並べられています。理系文系を問わず多岐にわたる学術標本・資料を専門家の解説つきで一挙に見ることが出来る貴重な機会です。

さらに、2023年に旧工学部本館を含む箱崎サテライト近代建物群は九州大学で初めて登録有形文化財に指定されました。館内を歩くと設立時の趣向や、学生が過ごした当時の面影が随所に残っています。多くのお客様に様々な九大博物館を楽しんでいただけるよう企画を考えています。是非お越しください。

※教員によるイベントに関する詳細な情報は当館ホームページに順次公開していく予定です。

展示案内

九州大学と旧工学部本館

米元 史織 開示研究部門・准教授

期間 ● 2024年11月1日(金)～ / 主催 ● 九州大学総合研究博物館 / 会場 ● 箱崎サテライト旧工学部本館3階の常設展示室内ミニ展示コーナー

この展示では、2023年3月に九州大学初の登録有形文化財「旧九州帝国大学(現国立大学法人九州大学箱崎サテライト)近代建造物群」に登録された建物のうち、旧工学部本館を紹介しています。

箱崎キャンパスは、箱崎町字地藏松原に1911(明治44)年に工科大学が整備され、国内4番目の帝国大学として九州帝国大学が創立して以降、伊都への移転が完了する2018年までの約110年間九州大学の中心でした。その中で、正門に近い立地にあり、箱崎地区における九州大学の代表的建築物の1つが旧工学部本館です。今回の展示では、創設の経緯や設計士倉田謙氏や設計技師の小原節三氏の生涯、そして本館の建築学

的特徴について紹介しました。

さらに、本館の中でも特に格調高い壁画の会議室の雰囲気や、少しでも味わってもらおうと展示空間の奥壁に4階会議室の壁画を詠え、中央に会議室の机と椅子を配置しました。是非座って、壁画の会議室の雰囲気を味わってみてください。

この展示をもって、本館の常設展示室のミニ展示コーナーで行われる展示は最後になります。旧工学部本館の3階に常設展示室ができた2008年以降様々な展示を行ってきました。これまで当館に足を運んでくださった多くのお客様に感謝申し上げます。今後の活動にも是非ご期待ください。

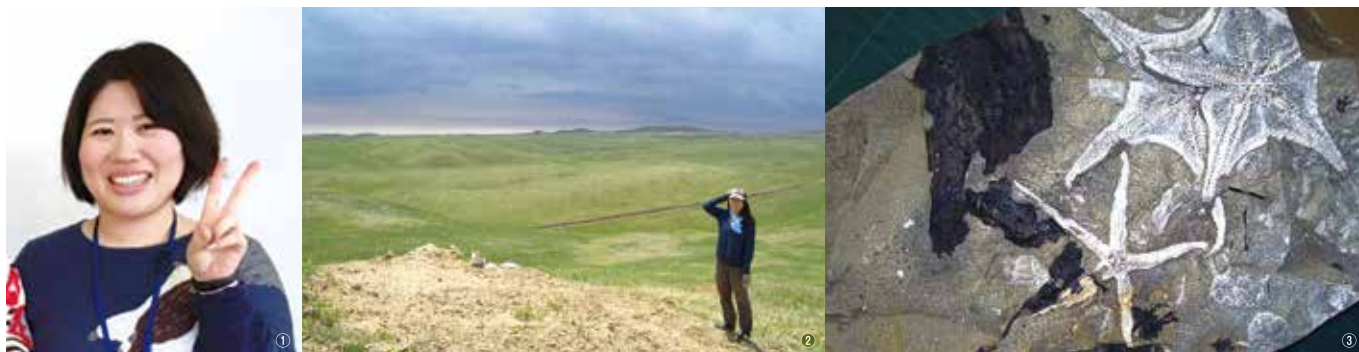
この展示をもって、本館の常設展示室のミニ展示コーナーで行われる展示は最後になります。旧工学部本館の3階に常設展示室ができた2008年以降様々な展示を行ってきました。これまで当館に足を運んでくださった多くのお客様に感謝申し上げます。今後の活動にも是非ご期待ください。

① ② 展示風景



着任のご挨拶

加藤 萌 分析研究部門・助教



2025年2月より、分析研究部門の助教として九州大学総合研究博物館に着任いたしました、加藤萌です。2017年に名古屋大学環境学研究科にて博士号を取得後、金沢大学でポスドク・特任助教を経て研究を続けてきました。

専門は地質・古生物学で、特に棘皮動物類と呼ばれるヒトデやウニの仲間を中心に、化石種の記載分類や古生態に関する研究を行っています。棘皮動物の仲間は、恐竜やアンモナイトの出現よりもっと古い時代から地球上に存在していた、ずっと古株の生き物です。私はこれまで、フィールド調査や形態観察をもとに、中新世(約1600万年前)の化石ヒトデ類を中心とした記載・分類を行ってきました。今後は日本中の化石のウニ・ヒトデ類のデータを収集し、北西太平洋地域における棘皮動物の進化や古生物地理の変遷を考察していきたいと思っています。

また、近年は化学合成生態系に関する研究も行っています。化学合成生態系とは、主に深海などの太陽の光が無い場所に存在する生態系で、化学合成細菌と呼ばれる微生物たちが硫化水素やメタンなどの物質

を酸化した際に得られる化学エネルギーをもとに、栄養となる有機物を作り出しています。化学合成生態系は化石としても保存されることがあり、アメリカ大陸内部の後期白亜紀(約7400万年前)の地層には、そのような化学合成生態系の化石が多数見つかります。その中に、現生ではあまり見られない棘皮動物類の化石(ウニ・ウミユリ)なども発見されました。私はそんな化学合成生態系化石の中から見つかったウニやウミユリが、化学合成生態系の一員として生息していたことを、化学的分析などを行うことで明らかにしました。

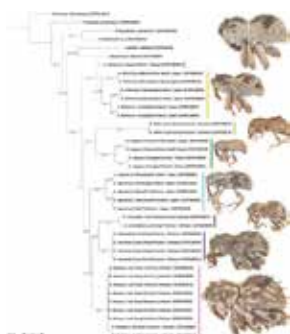
生物は、環境の変化に応じて進化を繰り返してきました。九州大学総合研究博物館も、環境の変化に伴いこれから「進化」していくまさに過渡期だと思います。そしてそんな時期に着任となった私も、博物館とともに「進化」し、博物館の進化と発展に貢献していきたいと思っています。

① 加藤 萌 助教 / ② アメリカ・サウスダコタのフィールドにて / ③ 愛知県師崎層群のヒトデ化石

COLUMN③

当館の収蔵標本からゾウムシの新種

丸山 宗利 分析研究部門・准教授



© Jake Lewis

当館には120万点を超える昆虫標本がありますが、多数の未記載種(いわゆる新種)を含んでおり、宝の山です。九州大学の学生はもちろん、学外の研究者にも貸し出し、それをもとに毎年多数の新種が発表

されています。

今回、故森本桂先生の収集された当館のゾウムシのコレクションが、沖縄科学技術大学の大学院生 Jake Lewis さんに貸し出され論文化、そのなかからダルマクチカクシゾウムシ

属 *Aphanerostethus* の7新種の新種(学名の基準となる標本)が当館に収蔵されることになりました。このようにして当館の収蔵標本の価値が高まるのは大変喜ばしいことです。



博物館の活動記録

Activities of Exhibitions & Conferences

特別展示

- 巡回展「害蟲展 season5 ～ワルモノにされたイキモノたち～」
期間○令和6年9月28日(土)～10月8日(火)
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
協賛○環境機器株式会社、FKK 株式会社、大日本除虫菊株式会社、株式会社バートック、barefoot republic co.ltd.、株式会社新東通信/CIRCULAR DESIGN STUDIO、IY Holdings 株式会社、エルアイエル国際特許商標事務所、一般社団法人バイオミクラー・ジャパン、有限会社イーテック、株式会社ADX、SASAI FINE ARTS、TAKEO 株式会社、株式会社アールオーエス、シェル商事株式会社
協力○株式会社中川ケミカル、箕面公園昆虫館
共催○8thCAL 株式会社、九州大学総合研究博物館
- 「写真とパネルでみる『まちの学芸員』活動展」
期間○令和6年11月17日(日)～11月26日(火)
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館1階123号室
主催○九州大学総合研究博物館
- 登録有形文化財記念展示「九州大学と旧工学部本館」
期間○令和6年11月1日(金)～
場所○九州大学箱崎サテライト総合研究博物館常設展示室
主催○九州大学総合研究博物館
- 「弥生時代の人々ー九州大学の自然人類学研究ー」
期間○令和6年10月3日(木)～令和7年1月16日(木)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
協力○比較社会文化研究院基層構造講座、糸島市、学術変革領域研究(A)本州・四国・九州域における先史人類および文化の形成

講演会等

- 「弥生人骨ー日本人の起源」探求のミッシングリンク」
日時○令和6年10月26日(土) 13時30分～15時
場所○九州大学伊都キャンパス センターゾーン 日本ジョナサン・KS・チョイ文化館
講師○中橋 孝博 九州大学名誉教授

サテライト展示

- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立糸島市図書館二丈館
- 福岡県のクワガタ
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立伊都文化会館
- 福岡県の蝶
期間○令和4年2月24日～
場所○糸島市立志摩歴史資料館

協力

- 九州大学総合研究博物館×NHK「バックヤード探検隊」
期間○令和6年9月7日(土)～9月16日(月・祝)
場所○NHK福岡放送局(福岡市中央区六本松1-1-10)1Fロビー・2Fギャラリー
主催○NHK福岡放送局
協力○九州大学総合研究博物館
- 「元寇とその時代～文永の役から750年を迎えて～」
期間○令和6年10月8日(火)～12月1日(日)
場所○福岡県立図書館本館1階エントランスホール
主催○福岡県立図書館
協力○九州大学総合研究博物館
- モンゴル襲来750年日蒙国際歴史学シンポジウム「モンゴル襲来研究の最前線」関連展示
期間○令和6年11月8日(金)～11月22日(金)
場所○フジギャラリー
主催○駐日モンゴル大使館、在福岡モンゴル国名誉領事館
共催○九州大学
協力○モンゴル国文化庁文化財遺産センター
後援○(公財)福岡県国際交流センター
- 「ハコザキマルシェ×九大博物館@箱崎サテライト」
日程○令和6年11月17日(日)
場所○九州大学箱崎サテライト
主催○箱崎商店連合会
協力○九州大学総合研究博物館
- 「BLUE WAYー私たちが創造する青の道ー」
日程○令和6年12月1日(日)
場所○管崎宮参道
主催○箱○道実行委員会
協力○東区役所総務部企画振興課、なみきスクエア、地域共創協学デジタル化事業実行委員会[中核館:九州大学総合研究博物館]、九州産業大学造形短期大学部中谷研究室、福岡女学院大学 金沢ゼミ、ハコトル株式会社松屋材木商会、染や月のまつり、MONTE、Aooo Hair、Maison HAKOSHIMA、大学湯、C.L.C works、あーとみーと、OIL MOUNT PRINTERS、ホルベイン画材株式会社、株式会社山本文房堂、有田和樹、石田陽介、榮留皓太、川村愛、箱崎公民館、ブックスキューブリック箱崎店、ムメイジユク、はこざき写真館、もも庵、BLUE WAY サポートアーティスト、箱崎有志団体、他

講座・ワークショップ他

- 「博物館ー公民館連携の可能性を探るオンラインシンポジウム かりりば Part 1 いま知りたい、公民館のコト」
日時○令和6年11月25日(月) 19時～21時
場所○オンライン開催
主催○地域共創協学デジタル化事業実行委員会 [中核館:九州大学総合研究博物館]
共催○日本ミュージアム・マネジメント学会(JMMA)九州支部
協力○福岡市箱崎公民館

- 弥生時代の人々ー九州大学の自然人類学研究ー関連イベント「体験！3Dスキャナーで骨をスキャンしよう！」
日程○令和6年11月30日(土)
場所○フジギャラリー
主催○九州大学総合研究博物館
講師○米元 史織(総合研究博物館 自然人類学専門)
- ワークショップ「時空ーWhat is the size of time?」
日時○令和6年12月1日(日) 10時～16時
場所○九州大学箱崎サテライト旧工学部本館1階123号室および3階東ウイング廊下
主催○九州大学大学院芸術工学府スタジオプロジェクト「Design in Japan C」
協力○九州大学総合研究博物館、九州大学文学書館
- 「博物館ー公民館連携の可能性を探るオンラインシンポジウム かりりば Part 2 いま知りたい、博物館のコト」
日時○令和7年1月27日(月) 19時～21時
場所○オンライン開催
主催○地域共創協学デジタル化事業実行委員会[中核館:九州大学総合研究博物館]
共催○日本ミュージアム・マネジメント学会(JMMA)九州支部
協力○福岡市箱崎公民館

その他の活動状況

Others

運営委員会

- 令和6年8月20日(書面)
- 令和6年8月28日(WEB)
- 令和6年11月8日(書面)
- 令和6年11月19日(WEB)
- 令和7年1月21日(書面)

人事往来

- 令和7年2月1日付けで、助教として加藤 萌が着任しました。

総合研究博物館では2022年、新たに用途特定寄附金を設置しました。皆様からの以下2つのご寄付を受け付けています。

『博物館活動充実基金』

○当館は、本学の教育・研究・医療の歴史の中で収集された約155万点にのぼる貴重な標本・資料を管理し、新たな教育・研究へ活用するために尽力しています。皆様からのご寄付は、博物館活動をさらに充実させるとともに、今後の博物館の整備等に必要なる諸事業に活用いたします。

▼詳しくは総合研究博物館 HP をご参照下さい

【九州大学総合博物館:博物館活動充実基金(kyushu-u.ac.jp)】
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/information/museumfund.html>



用途特定寄附金

『総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業』

○当館は、九大百年の歴史のエリアである箱崎サテライトにおいて令和10年にリニューアルオープンします。また伊都キャンパスに伊都標本資料研究・教育プラントを令和5年に設置しました。リニューアルに際し、箱崎と伊都をつなぐ、大規模な展示施設の整備を企画しています。皆様からのご寄付は、展示・開示活動を核とした情報発信、地域連携、社会教育などの諸活動のさらなる拡充と機能強化に活用いたします。

▼詳しくは九州大学基金のHPをご参照下さい

【九州大学総務部同窓生・基金課基金係:総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業】
https://kikin.kyushu-u.ac.jp/news/view.php?cld=1558&_search=&mode=1&page=1

